

奈良県天理市の公民館からの依頼でぼうさいダックを初実演 ～併せて防災講話と小学生のぼうさい探検隊マップコンクールをPR～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：中村 哲・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社常務執行役員）では、7月23日（日）に天理市立井戸堂（いどどう）小学校多目的室で開催された「防災講座」に防災博士の増田晶子さんとともに参加し、講師を務めました。

近畿支部では昨年度から、奈良県が推し進めている「ならの教育応援隊」の出前授業メニューに「ぼうさいダック」と「小学生のぼうさい探検隊」を登録しており、今般、天理市立井戸堂公民館より、同公民館が企画する防災講座への講師派遣依頼を受けたものです。

当日は、幼稚園児や小学生の親子4組11名が参加。まず、ぼうさいダックカード（地震・火事・台風・洪水・交通安全・誘拐）を見せ、その危険についての説明と危険に対して自分の命や体を守るポーズを覚えてもらいました。

続いて、昨今各地で頻発する豪雨災害等に備え、日頃から意識をもって、ご家庭で取り組んでいただけるようなお話をし、非常用持ち出し袋（リュック）を背負った時の重量について実演を通じて考えていただきました。

併せて、新聞紙を使ってスリッパを作る体験と夏休みの自由研究として「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」の呼びかけを行いました。

奈良県で「ぼうさいダック」を実演するのは今回が初めてです。公民館の主催者からは、「参加した児童も大変喜んでいて、大人の私でも大変勉強になる素晴らしい講座でした。」と感想をいただきました。

※「ぼうさいダック」は、安全・安心の「最初の第一歩（ファースト・ムーヴ）」を、子どもたちが実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。カードには、防災や日常の危険から身を守ることを学ぶものだけでなく、挨拶やマナーといった日常の習慣について学べるものも含まれています。子どもたちが、楽しみながら繰り返しゲームをするうちに安全・安心への「最初の第一歩」が自然と身につくようにつくられています。

当支部では、引き続き防災博士や関係機関と連携し、地域の安全・安心に資する取組みを推進してまいります。



ぼうさいダック（地震から頭を守るダックのポーズ）



非常用持ち出し袋（リュック）で背負える重さを体験



阪神淡路大震災の様子を説明し、日頃からの備えについて講話。



新聞紙スリッパ



夏休みの自由研究に、ぼうさい探検隊をPR